

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①：教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

(i) 授業実施状況

教育科目一覧は、準学士課程・専攻科とも毎年4月に発行される学生便覧の教育課程の章に記載されており（前出資料5-1-①-1～7及び資料5-5-②-2）、科目毎の教育内容の詳細はウェブサイトで公開されるシラバスに記載されている（資料9-1-①-1）。授業の実施状況は、準学士課程においては年度末に学生課に提出している学級日誌から把握が可能であり、専攻科においては授業完了報告書により実施状況の報告を義務付けている（資料9-1-①-2）。また、それぞれの授業の実施日と学生の出欠は、出席簿に記録され、それぞれの担当教員によって管理されている（資料9-1-①-3、ただし、総合システム工学プログラム関連科目に関しては授業完了報告書の一部として学生課に提出している）。

(ii) 成績データ管理と成績評価

科目の成績データの管理は、準学士課程においては年4回の実施される定期試験毎に成績管理システム「キャンパスアシスト」に成績評価データが入力され、学生の個人成績が管理されている（資料9-1-①-4）。専攻科の成績管理は、前後期の授業完了報告書の入力ページから担当教員が成績入力を行って科目毎に管理されている（資料9-1-①-5）。また、試験答案や課題レポートなどの成績評価の根拠資料は、準学士課程においては各教員が保管管理し、専攻科においては授業完了報告書の添付資料として提出を義務付け、学生課がそれを保管している。年度末にはこれらのデータをもとに、準学士課程においては進級・卒業判定会議、専攻科においては専攻科会議において、進級・卒業・修了の要件を満たすか否かの一覧表が配布され、その判定を行っている（前出資料5-3-①-5及び6）。

(iii) 教育活動に関する評価・点検

教育活動の全般的な自己点検・評価は、校長を委員長とする自己点検・評価委員会が行い（資料9-1-①-6）、その結果を自己点検・評価報告書としてまとめている。自己点検・評価報告書は平成11年度から13年度までの3年間と平成16年度の計4回作成された（平成16年度版は資料9-1-①-7）。また、専攻科と4、5年のカリキュラムで構成される総合システム工学コースは、平成16年度に専攻科企画運営委員会を中心に詳細な自己点検評価が行われ、専攻科担当教員会議の審議を経て、自己点検書としてまとめられた（資料9-1-①-8及び9）。なおこの自己点検書は、JABEEへの報告書として提出された。

資料 9-1-①-1 : 準学士課程のシラバスの公開ページ

国立沼津工業高等専門学校 教授要目 (シラバス) 最終更新05/04/06

はじめに

この「シラバス(授業計画)」には、授業科目ごとに、講義の内容と目標、各週の授業項目、学習に必要な教科書・参考書、評価方法、学生が質問に行きやすいように授業担当教員のオフィスアワー等が掲載されています。

このシラバスは、これまでに実践した授業の結果等を、教員自らが更に点検・評価を行い、毎年度更新しているもので、本校の自己点検・評価の一環として公開しているものであります。

一般科目・専門科目の教育課程については本文に示すとおりであって、一般科目については学科によって単位数の学年別配当に違いがあります。また、専門の選択科目開講の単位数についても、各学科・コースによって差があり、中には集中講義によって履修する選択科目も設けてあります。

工業高等専門学校における学修は、技術・研究を志す学生にとって学習の第一歩であり、自学自習の精神を培うよい場であります。

このシラバスの内容を把握して年間の学習計画を立てて履修に努めれば、より良き理解が得られるものと信じます。

人間性豊かな、人柄の良い技術者を目指して、このシラバスを有効に活用し、学業に成果をあげることを期待します。

国立沼津工業高等専門学校長 久賀重雄

平成17年度版(2005)
平成16年度版(2004)

ページが表示されました インターネット

(出典：本校公式ウェブサイト，シラバス)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/syllabus/newsyllabus.top.htm>

資料 9 - 1 - ① - 2 : 専攻科授業完了報告書作成に関する細目

report - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 検索 お気に入り メディア

アドレス http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/report.html#AppA2

• 2号書式(授業完了報告書)の項目

1. 科目名:
2. 担当者名:
3. 対象学年:
4. 単位数:
5. 必修/選択:
6. 開講時期:
7. 授業区分
 - i. 工学専門区分(必修となる分野区分/学位分野):
 - ii. 基礎能力(数学、自然科学、情報技術):
 - iii. 基礎工学区分:
 - iv. 社会科学等(人文・社会科学、語学):
8. 授業形態:
9. 実施場所:
10. 受講者数:
11. 開講(単位)時間数:
12. 学生による授業評価:
13. 評価:

学生番号	学生氏名	受講(実)時間	目標別評価 A,B,C,D,E	学生の自己評価	教科目評価	総合評価
14. 授業実施状況(シラバスに沿った報告書)
以下の各項目について、400字程度で記述する。
 1. 授業の工学的、社会的意義をどのように説明したか。(時事的な問題との関連を重視しての説明があれば特記すること)
 2. OHP(or プレゼン・ソフト)、AV等、補助教材をどのように活用したか。(学生の反応を基に判断すること)
 3. 宿題の質と量は適切であったか。(学生の提出物を基に判断すること。)
 4. 学生からの質問の質と量はどのように判断するか。(オフィスアワーの設置・活用状況を明記すること)
 5. 全般的に見た場合、学生の成績はどうであったか。(学力、モラル、社会的意識等、多面的に捉えること)
 6. 次回の授業計画に活かせる事項は何か。(具体的な事項について述べること)

[文頭へ戻る。](#)

(出典：「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」の付録)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/report.html#AppA2

資料 9-1-①-3 : 出席簿

平成 16 年度 出 席 簿 連休

授業科目	学科 学年組	担当 教官名	印																	
		中丸真司	⑨																	
実施回数	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17																		総実施回数	34
実施月日	4/2	4/4	4/7	4/10	4/13	4/16	4/19	4/22	4/25	4/28	5/1	5/4	5/7	5/10	5/13	5/16	5/19	5/22	5/25	34時間
曜日																				
実施時間																				
実施時間数																				合計 欠課時数
1		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	5/16
2		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
3		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
4		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	4
5		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
6		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
7		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
8		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
9		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
10		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
11		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
12		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
13		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
14		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
15		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
16		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
17		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
18		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
19		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
20		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
21		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	4
22		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
23		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
24		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
25		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
26		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
27		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
28		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
29		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
30		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	4
31		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
32		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
33		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
34		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
35		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
36		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
37		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
38		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
39		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
40		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
41		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	4
42		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	4
43		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

記入要領 : 出席—無印 遅刻—×記印 欠課—1,2の数値(実施時数欄の数値) 遅刻は3回につき欠課時数1とする
注 : 出席簿は、学年末に提出する成績表に添付してください 清書転記したものが望ましい

(出典：平成16年度出席簿)

資料 9-1-①-4 : 成績管理システム「キャンパスアシスト」

2005年 6月28日(火) HELP LOG OUT
沼津工業高等専門学校 ユーザー名:牛丸真司 2005年度 前期

成績一覧表

Page: [1 2 / 2] Results: 25Hits 次へ

「詳細」ボタンをクリックして、成績一覧が表示されない、又はエラーメッセージが表示される場合は、
Downloadをマウスで右クリックして「対象をファイルに保存」を選択してください。

試験	学年	クラス	作成日	詳細	ダウンロード
前期中間	1	機械工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	1	電気電子工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	1	電子制御工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	1	制御情報工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	1	物質工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	2	機械工学科	2005/06/28	詳細	Download
前期中間	2	電気電子工学科	2005/06/28	詳細	Download
前期中間	2	電子制御工学科	2005/06/28	詳細	Download
前期中間	2	制御情報工学科	2005/06/28	詳細	Download

[異動状況一覧] [学生数一覧] [トップへ戻る] [ログアウト]

(出典：キャンパスアシスト)

https://campus.numazu-ct.ac.jp/cassist/login/default.asp

資料 9 - 1 - ① - 5 : 専攻科成績評価の入力画面例

成績の表示

授業完了報告書作成に戻る <TOP

注)MS-Windows 98/98SE/MEとインターネットエクスプローラ(IE)の組合せで動作しないケースがありましたので入力ページの構成を変更しました。--->詳細
成績の入力は学生ごとに行ってください。表の最右端のeditをクリックすると当該学生の編集ページ移動します。多少使いにくいかもしれませんが御容赦ください。

学籍番号	氏名	受講 (実)時間	科目評価項目					学生の 自己評価	総合 評価	Ver.	更新日	備考
			レポート 25【%】	発表と討論 25【%】	試験 30【%】	授業態度 10【%】	自己評価 10【%】					
		21	B	B	C	A	A	A	B	4	2005-02-17 13:15:22	edit
		19	A	B	A	A	B	B	A	4	2005-02-17 12:12:01	edit
		19.5	A	B	A	A	A	A	A	3	2005-02-17 12:10:31	edit
		22.5	A	A	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:11:05	edit
		22.5	A	A	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:11:19	edit
		22.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:11:33	edit
		19.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:12:19	edit
		21	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:12:48	edit
		19	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:13:11	edit
		22.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:13:32	edit
		21.5	B	B	B	B	A	A	B	4	2005-02-17 12:16:01	edit
		21.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:15:29	edit
		21	A	B	B	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:16:24	edit
		21	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:16:49	edit
		21	C	B	B	C	A	A	B	4	2005-02-17 12:21:00	edit
		21	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:17:09	edit
		20.5	B	B	A	A	A	A	A	3	2005-02-17 12:19:51	edit
		21	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:17:46	edit
		20.5	B	B	C	A	A	A	B	3	2005-02-17 12:22:00	edit
		21.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:20:02	edit

(出典：専攻科成績入力システム)

http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/user_login

資料 9-1-①-6：自己点検・評価委員会規則

○沼津工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

(平成 11. 10. 13 制定)

最終改正 平成 14. 3. 13

(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校に、自己点検・評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 自己点検・評価に関する基本方針並びに実施計画等の策定に関すること。
- (2) 自己点検・評価の実施並びに結果に関する報告書の作成及び公表に関すること。
- (3) その他自己点検・評価に関する必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事），校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）
- (3) 各学科主任，教養科主任及び専攻科長
- (4) その他校長が指名する者

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き，校長をもってあてる。

2 委員長は，委員会を招集しその議長となる。

3 委員長に事故あるときは，委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めるときは，委員会に委員以外の者を出席させ，その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第 6 条 委員会に特定事項について審議するため，専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は，委員会が定める。

(事務)

第 7 条 委員会に関する事務は，庶務課庶務係において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会の定めるところによる。

附 則

この規則は，平成 11 年 10 月 13 日から施行する。

(出典：沼津工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則)

資料 9 - 1 - ① - 7 : 平成16年度自己点検・評価報告書ファイル一覧

平成16年度沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告

一覧ファイル	各部署作成ファイル
各学科等一覧	教養科
	機械工学科
	電気電子工学科
	電子制御工学科
	制御情報工学科
	物質工学科
	専攻科
委員会一覧(1)	教務委員会
	厚生補導委員会
	寮務委員会
委員会一覧(2)	情報処理教育センター運営委員会
	地域共同テクノセンター運営委員会
	学生生活支援室
	外国人留学生部会
委員会一覧(3)	動物実験委員会
	組換えDNA安全委員会
	安全衛生委員会
	セクハラ相談室

(出典：平成16年度自己点検・評価報告書)

http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/other/zikotenken/index.html

資料 9 - 1 - ① - 8 : 専攻科担当教員会議規則抜粋

沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則
(平成15年6月11日制定)

〈設置〉
第1条 沼津工業高等専門学校専攻科に専攻科担当教員会議(以下「会議」という。)を置く。

〈審議事項〉
第2条 会議は、校長の諮問に応じ、専攻科に関し、次に掲げる事項を審議する。

1. 教務に関する事項
2. 厚生補導に関する事項
3. 入学者の選抜に関する事項
4. 自己点検・評価に関する事項
5. 専攻科担当教員の資格審査に関する事項
6. 日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査・認定に関する事項
7. 大学評価・学位授与機構の審査に関する事項
8. その他専攻科の運営に関し、専攻科長が必要と認める事項

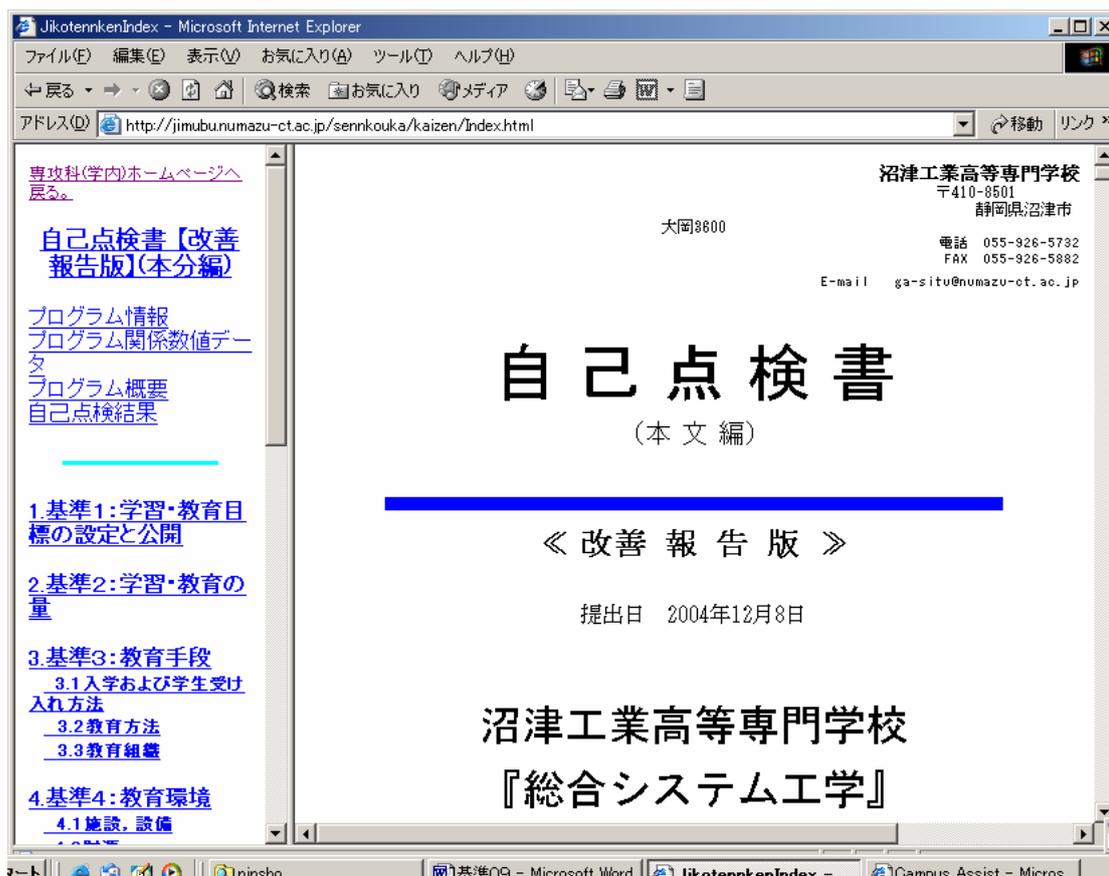
〈組織〉
第3条 会議は、次に掲げる教員をもって組織する。

1. 専攻科長
2. 専攻科担当教員(本校専任の教授、助教授及び講師に限る。)

(出典：沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則)

http://www.numazu-ct.ac.jp/Nct/Jpg/senkouka/senkouka_kyoukankaigi.html

資料 9-1-①-9 : 総合システム工学プログラム自己点検書



(出典：平成16年度「総合システム工学」プログラム自己点検書)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/sennkouka/kaizen/Index.html>

(分析結果と根拠理由) 優れている。授業の実施内容を示すシラバスはウェブサイトで公開されており、成績評価資料と評価結果も適切に管理されている。また授業の実施記録は、準学士課程においては学級日誌を通じて、専攻科においては授業完了報告書として学生課に保管されている。教育活動の全般的な自己点検・評価は、校長を委員長とする自己点検・評価委員会が行い、その結果を自己点検・評価としてまとめている。また、専攻科と4、5年のカリキュラムで構成される総合システム工学コースは、平成17年5月にJABEEコースとしての認定を受け、専攻科企画運営委員会を中心に自己点検評価を行う体制が整っている。

観点 9-1-②：学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況) 授業改善に役立てることを目的として、平成12年度より準学士課程、専攻科とも全科目を対象に、学生への授業評価アンケートを毎年実施している(資料9-1-②-1)。授業評価アンケート結果は、科目毎に集計され、学内にウェブサイトにより公開されている。授業評価アンケート結果の自己点検・評価への反映は、準学士課程では平成12年度および13年度の自己点検・評価報告書で、専攻科では平成16年度の自己点検書において、それぞれ行われている(資料9-1-②-2及び3)。

資料 9-1-②-1 : 授業アンケート実施要綱

授業アンケートの実施要綱

教務主事

授業アンケートの目的

- アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- 学生自身の授業に対する自覚を高める。

公表範囲

- 個々の科目の基礎データ（授業毎にまとめたデータ）に関しては、学内公開とする。
- 個々の学科で作成する自己点検評価書などを通じて、アンケート結果とその分析・対応などを一般に公開する。
- 学内公開用のフォーマットは別途定める。

実施範囲

- 実験・実習・卒研などを含む全科目で実施する。

評価段階と項目

- 評価は「非常に良い、良い、あまり良くない、悪い」の4段階で行う。
- 実験・実習系の科目で、該当しない項目については、授業担当者の指示で解答しないこととする。

実施時期

- 科目担当の教官が最終の授業（試験含む）時間の中で実施する。
- 前期で終了する科目は前期の終わりに実施する。それ以外の科目は学年末に実施する。
- 最終の授業までで行うか、試験時に行うかは、個々の教官が判断する。

アンケートの配布と回収

- アンケート実施要綱、質問用紙、コード表、マークシート記入要綱を、教務係から担当教官に事前に配布する。
- 質問用紙、マークシート記入要綱、マークシートを、アンケート実施に学生に配布する。
- アンケート終了後、配布した用紙を全て回収する。
- マークシートの回答は、定められた期限までに、教務係に設置したアンケート回収箱に投函する。
- マークシート以外の用紙は、必要なら繰り返し利用する（教務係への返却は不要）。

使用する資料・物品など

	使用資料・物品名	使用個数	教務係から教官へ配布	学生から教官が回収	教務係への返却/提出
実施教官用	アンケート実施要綱	各教官1部	○		
	アンケート実施に関するお願い	〃	○		
	科目・教官コード表	〃	○		
	質問用紙/マークシート記入要綱	〃	○		
対象学生用	質問用紙/マークシート記入要綱	各学生1枚	○	要	要
	マークシート	〃	◎	要	要
記号凡例	○実施初回にのみ配布。担当全科目に亘って使用する。 ◎実施初回に担当全科目分を配布。				

(出典：平成16年度授業アンケート実施要綱)

資料 9-1-②-2：授業評価アンケートの自己点検評価への反映

授業改善への取り組み

1. 授業アンケートの実施

平成12年度から、

- アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- 学生自身の授業に対する自覚を高める。

ことを目的に、学生に授業アンケートを行っている。平成12年度は、実施準備が整ったのが、12年度末(2月中旬)だったため、前期終了科目、5年生および専攻科生の受講科目については、アンケートが実施されなかったが、本年度は、全科目を対象に、授業アンケートを実施した。なお、昨年度は自己点検評価委員会によってこのアンケートが実施されたが、本年度からは教務委員会によって実施することになった。アンケート結果は、各科目について質問項目毎に集計したデータを学内限定のWebページにて、学内の全構成員に公開している。

上記の様に、昨年度と本年度では、実施状況が異なるが、両者の実施科目数と延解答者数を以下に示す。

総科目数 平成12年度 204 平成13年度 430

延解答者数 平成12年度 9,328人 平成13年度 17,394人

科目数は、工学実験など同一科目名で異なる学年で実施して科目や、選択科目で開講していない科目もあるので、若干の誤差はあるが、本年度の実施率は、全科目数(492)に対して、87.4%となっている。以下に質問内容と、その結果を示す。

<総合的満足度に関する設問>

22. 全体としてこの授業に満足できましたか？

表1に、アンケートを実施した全科目を総計した質問項目毎の結果を示す。括弧外が平成13年度、括弧内が平成12年度の結果である。

表1：授業アンケートの全科目総計の結果

番号	非常によい	良い	あまり良くない	悪い
1	28.0 (29.5)	45.8 (44.5)	18.7 (19.3)	7.4 (6.7)
2	18.7 (19.2)	46.1 (45.9)	26.0 (26.3)	9.2 (8.5)
3	24.8 (26.9)	43.5 (41.9)	23.3 (23.0)	8.4 (8.2)
4	27.4 (29.7)	44.0 (42.2)	20.5 (20.6)	8.1 (7.6)
5	26.7 (26.1)	51.5 (49.5)	15.6 (18.0)	6.2 (6.4)
6	24.3 (25.3)	44.3 (43.5)	22.8 (22.8)	8.6 (8.4)
7	28.7 (31.2)	43.3 (39.7)	19.6 (20.2)	8.5 (8.9)
8	24.2 (26.7)	43.3 (38.7)	23.5 (25.7)	9.0 (8.9)
9	22.7 (24.5)	41.3 (38.5)	26.0 (27.4)	10.0 (9.7)
10	27.2 (27.9)	49.3 (46.5)	16.9 (19.3)	6.5 (6.3)
11	25.8 (27.8)	50.1 (48.0)	16.8 (17.2)	7.3 (7.0)
12	24.3 (24.6)	49.4 (47.9)	19.5 (21.2)	6.7 (6.4)
13	54.3 (62.8)	34.6 (28.4)	7.3 (6.4)	.8 (2.4)
14	43.4 (45.9)	39.7 (35.2)	10.8 (12.0)	6.2 (6.9)
15	33.5 (36.2)	49.2 (46.3)	12.2 (13.2)	5.2 (4.3)
16	29.7 (31.9)	49.0 (46.2)	14.7 (16.3)	6.6 (5.6)
17	27.0 (30.6)	45.6 (43.4)	18.3 (18.1)	9.1 (7.9)
18	28.7 (33.4)	48.6 (44.3)	15.3 (16.0)	7.5 (6.3)
19	25.1 (27.3)	42.5 (40.6)	23.0 (23.5)	9.5 (8.7)
20	19.4 (18.0)	37.1 (33.8)	31.2 (34.5)	12.3 (13.6)
21	39.5 (41.3)	41.6 (38.5)	13.4 (14.8)	5.6 (5.4)
22	25.1 (27.4)	47.4 (45.4)	18.2 (18.5)	9.3 (8.7)

平成13年度の結果を平成12年と比較すると、それほど大きな違いは見られないが、ほとんど項目で、「非常によい」が1% 2%程度減って、その分「良い」が増えている。また、「悪い」という評価が0.5%程度ほとんどの項目で増えている。

授業アンケートを全面的に実施したのは本年度が最初であり、その結果をふまえた授業改善の努力も今後始るものと期待される。個々の教官が担当科目の評価結果をそれぞれ分析して、授業改善に具体的に役立てていくことが必要である。

(出典：平成13年度自己点検評価報告書)

資料 9-1-②-3 : 学生による授業評価結果

専攻科における学生による授業評価は '01年度より実施しているが、'02年度は授業評価に参加する学生数が少なく、比較しうるデータが得られていないので、ここでは '01年度と '03年度の比較を示す。

表 6. 7 学生による授業評価結果比較('01年度/ '03年度) : 専攻科

	01年度		03年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
前期	73.5	19.0	80.0	14.8
後期	77.7	17.3	82.4	14.9
通年	75.8	18.0	81.1	14.9

以下に示すのは '00年度～ '03年度の高専4,5年生における同様の調査結果である。

表 6. 8 学生による授業評価結果比較('00年度/ '03年度) : 高専4, 5年生

00年度		01年度		02年度		03年度	
平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
73.6	22.4	73.5	19.2	73.5	19.3	75.7	18.7

これらの指標はすべて、専攻科担当教員会議IV(年度末会議)にて開示される。

学生による授業評価は '01年度より行われているが、4,5年生による授業評価点は73点、標準偏差20点で推移しており、過去4年間、ほとんど変化は無い。

専攻科生の授業評価は '01年度で評価点 75.4 ± 2.1 、標準偏差の信頼区間は信頼度99%で[17.1, 20.5]であり、4,5年生の評価点、標準偏差とは有意な差異は認められない。'03年度については、評価点 80.2 ± 1.7 、標準偏差の信頼区間は信頼度99%で[14.4, 16.9]であり、'01年度とは明確に異なっている。評価点の4ポイント向上、標準偏差の3ポイント縮小は '03年度からの専攻科整備の成果である。

(出典：平成16年度「総合システム工学」プログラム自己点検書)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/sennkouka/kaisen/index.html>

(分析結果と根拠理由) 相応である。学生によるアンケートは継続的に実施され、その結果が集計され、準学士課程については平成12年度および13年度の自己点検・評価報告書に、専攻科については平成16年度の自己点検書に、それぞれアンケート結果の分析が行われている。

観点 9-1-③ : 学外関係者 (例えば、卒業 (修了) 生、就職先等の関係者等が考えられる。) の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況) これまでも、卒業生とは、本校同窓会の理事会 (毎年2名の連絡担当理事を送っている) や、毎年各学科で卒業生を招いて行っている就職懇談会の際などに意見交換の場を持っており、本校の教育に関する意見を聞く機会を設けてきた。また、各学科の就職担当教員による企業の人事担当者との意見交換という形で、学外関係者の意見を聞く機会があり、それらを学科会議などに伝えて教育課程を見直すきっかけとすることなどもある。しかし、これまでは、これらの活動は学校全体の系統的な取組という形にはなっていなかった。そこで、平成17年度より、学校全体の取組として、求人企業の人事担当者にアンケート調査を行い、教育に関する意見を聴取するようにした (資料 9-1-③-1)。平成17年6月28日現在で47社より回答を得ており (資料 9-1-③-2, 前出資料 6-1-⑤-1 及び 2), このデータは今後、教務委員会等で検討し、平成17年度

以降の自己点検評価に反映させていく予定である。

資料 9-1-③-1 : 企業アンケート配布資料

企業の皆様へアンケートのお願い

就職委員会委員長 沼津工業高等専門学校長

拝啓

貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、「卒業生の進路先と本校の関係」をより緊密にする目的で、今年度からアンケートを実施したいと思っておりますので、是非ご協力をお願いいたします。

敬具

・ 貴社名 ()
・ 記入者氏名 ()

記入方法：特に指定の無い質問項目については、採用にあたっての優先順位を□の中にご記入ください。【同じ番号も可】

- (1) 今回はどの工学科の学生の採用をお考えですか？ 【優先順位を記入、同じ番号も可】
□機械、□電気電子、□電子制御 □制御情報 □物質
- (2) 卒業見込み者以外に専攻科生や卒業生の採用をお考えですか？
□卒業見込み者 □専攻科 □卒業生 【どちらでも良い場合は両方にレ点】
- (3) インターンシップについて、受け入れの予定はありますか？
□予定している □検討中・検討する □予定はない 【該当する項目にレ点】
- (4) どのような能力を求めておられますか？ 【優先順位を記入、同じ番号も可】
□指導力 □社交性 □行動力 □技術力 □知識量 □その他()
- (5) どのような教科の学力を重視されていますか？ 【優先順位を記入、同じ番号も可】
□数学 □物理・化学 □英語 □その他の一般教養科目
□専門基礎科目 □専門科目 □その他()
- (6) どのような資格の取得を望まれますか？もしあれば記入してください。
()、()
- (7) 採用にあたって、大学生と高専生の相違点でお気づきのことがあれば記入してください。
- (8) その他、沼津高専についての希望や質問等ございましたら、何でも記入してください。
(別紙を添付していただいても結構です。)

ご協力ありがとうございました。

記入後に、このままFAXしていただいても構いません。(学生課 fax : 055-926-5882)

(出典：就職委員会)

資料 9-1-③-2：企業アンケート集計結果

(5) 半力重視理由						(7) 資格	(8) 採用にあたり大学、高専の相違点	(9) 希望、質問	
専攻 主専	専攻 副専	その他 専攻	その他 専攻	その他 専攻	その他				
		1	1			TOEIC500点取	企業の中で再生できる可能性、伸びる可能性が大きいと思 います		
3	2	1	1	2			高専生の方が、英語向きであるように思います		
1	1	1	1	1		TOEIC650点 特許士補		読み書き、そろばんの基礎能力の充実を望みます	
3	4	6	5	1	2		特許は専門性が強く英語運用能力は高いことは認めるが、F I活動での英語力が高い		
1			1	1		CAD 情報処理	高専の学生は基礎能力が高い	今年は是非一人お取引したい	
		1	1			市役所職員	製造業関係の会社にも半力士より高専生の採用の方が リーディング企業とされ、大、専門性も高い	生徒さん達の気持ちの良い研修には参加しました	
5	4	6	2	1	3		地域による採用で入社まで安心感がある	初づくりの喜び、特許、考え方を命以上に身につけてほしい	
2	2	2		1	1		高専生の方が英語能力に優れている		
				1		ソフトウェアエンジニア ドットコムマスター	半力は申し分なし 年齢差(2年)(メンタル 差)はある (人によりけりだが感じるケースが多い)		
2	3	4	2	1	1		高専生の方が体育レベルは高い	学生紹介	
			2	3	1		パソコン資格等		
			1	1			ネットワーク系 情報処理系	高専生、真摯である 意欲に受け入れる意向	O Bも重視しておりますので、不明な点は気にせずご質問下 さい
			1	1				年齢が若い、自主的に行動する力や言う点では、やや強い 点があるからしれない	
2	2	3	3	1	1	専攻主専(2名)	年齢のせいだと思いますが、大学生と比較すると考え方が多 少の違いがあります (教えてあげるとすればですが)		
			1	1			大学生の採用は専攻で一括採用になっており、工学採用では 高専、高専の採用を実施しているため、特許にありません		
		1	1			特許活動特許士1名 特許活動特許士2名		今後、製造関係の学生に対する合同説明会、あるいは見学会 等も考えておりますので、ご参加いただければと思います	
2	2	2	2	1	1		特許にありません	是非、多くの方にご応募いただいたために、先生方からもご 御礼申し上げます	
			1	2			高専生の方がより専門性が高い	特許にありません	
	1	1				ロボティクス 文庫	特許に大きな相違点はないが、強いて挙げればあとない人が 多いような印象を受ける		
				1		専攻自動運転系 市役所職員主任	高専生の体育力、基礎能力に大変興味を持っています	色んな面ではなく、私語を控えますが、今後とも是非お取引 いたします	
	1					Excel Word	経営(専門男女含めて)の点、社会性の面ではやや大学生 がうであるが、専門の修では見分けとらない	工場(採社)訪問をしていただければ、当社の内容もより 深くご説明いただけるものと幸いです	

(出典：学生課学生係)

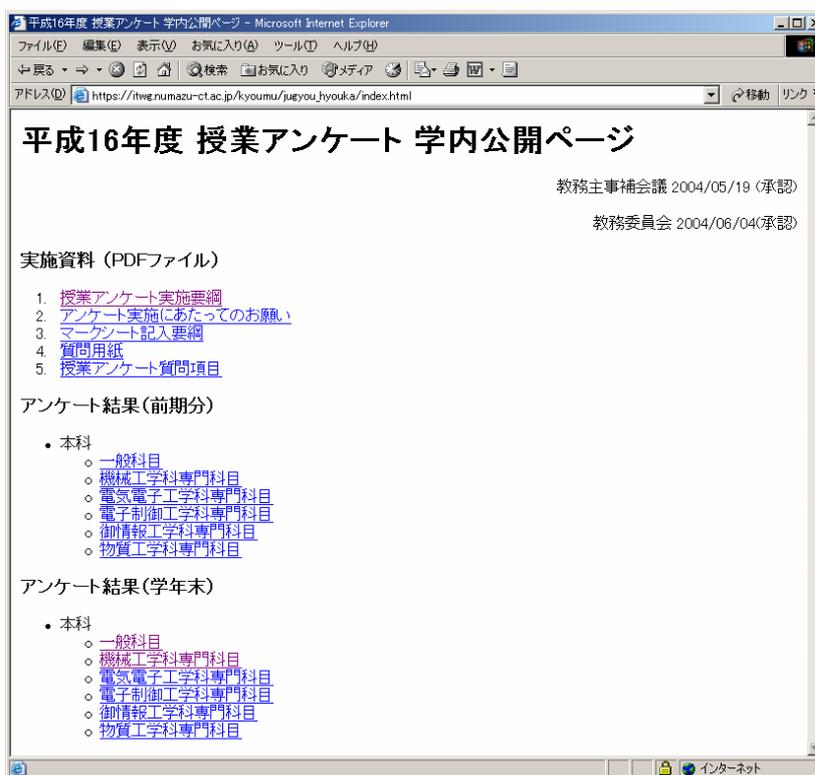
(分析結果と根拠理由) 相応であるが、改善の余地がある。これまでも各科の取組として、卒業生や求人担当者からの意見を聞く機会を設けてきた。平成 17 年からは学校全体の取組として求人企業へのアンケートを実施し、学外関係者の意見を系統的に聴取することに努めている。しかし、この取組は始まったばかりであり、そこで得られた情報を教育課程の改善等にどのように生かしていくかは今後の取組にかかっている。

観点 9-1-④：各種の評価(例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的なかつ継続的な方策が講じられているか。

(観念に係る状況) 自己点検・評価の結果は、ウェブサイト等を通じて全教職員に周知されている(前出資料 9-1-①-7 及び 9)。また、授業評価アンケートの結果は、実施後 1~2 ヶ月後に科目単位で集計され、ウェブサイトにより学内に公開されている(資料 9-1-④-1)。

自己点検・評価結果を踏まえたカリキュラム改善の検討は、準学士課程においては、それぞれの学科(教養科を含む)を主体に恒常的に行われており、最終的に教務委員会の審議を経て、カリキュラムの見直しが行われるシステムになっている(資料 9-1-④-2)。平成 15、16 年度に行われたカリキュラム改定の一覧を資料 9-1-④-3 に示すが、平成 15 年度と平成 16 年度で計 27 科目の改廃、新設が行われた。専攻科においては、企画運営委員会を中心にカリキュラムの検討が行われており、総合システム工学プログラムの改善プロセスの一環として、カリキュラムをはじめとする教育課程の改善を行っている(資料 9-1-④-4)。また、教育課程の全般の見直しについては、教員会議等の審議を経て、校長を委員長とする総務委員会が行うこととなっている(資料 9-1-④-5)。

資料 9-1-④-1 : 授業アンケートのウェブサイトによる学内公開



(出典：授業アンケート公開ページ)

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/jugyou_hyouka/

資料 9-1-④-2 : 教務委員会規則

○沼津工業高等専門学校総務委員会規則

(昭和49.2.25制定)

最終改正 平成16.4.14

(目的)

第1条 沼津工業高等専門学校の管理運営の円滑を図るため、総務委員会（以下「委員会」という。）をおく。

(組織)

第2条 委員会は、校長が主宰し、次の委員をもって組織する。

- (1)副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）
- (2)学科主任、教養科主任及び専攻科長
- (3)本校教員で校長が任命した者
- (4)事務部長

(審議事項)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

- (1)教育の方針に関すること。
- (2)学校の管理運営に関すること。
- (3)その他必要と認められること。

(会議)

第4条 委員会は毎月1回校長がこれを招集する。ただし、必要あるときは、臨時にこれを招集することができる。

(出典：本校規則集)

資料 9-1-④-3 : カリキュラム改定一覧 (準学士課程, 平成15, 16年度)

平成15年度				
審議機関	審議日	該当科	旧	新
第1回教務委員会	平成15年6月2日	物質工学科	学外実習(4年、2単位)	学外実習Ⅰ(4年、1単位) 学外実習Ⅱ(4年、2単位) 学外実習Ⅲ(5年、1単位)
第1回教務委員会	平成15年6月2日	物質工学科	材料化学実験 (4年、材料コース、4単位)	材料化学実験1 (4年、材料コース、2単位) 材料化学実験2 (4年、材料コース、2単位)
第1回教務委員会	平成15年6月2日	物質工学科	生物工学実験 (4年、生物コース、4単位)	生物工学実験1 (4年、材料コース、2単位) 生物工学実験2 (4年、材料コース、2単位)
第2回教務委員会	平成15年9月24日	物質工学科	物質工学実験(4年、2単位)	化学工学実験(4年、2単位)
第2回教務委員会	平成15年9月24日	制御情報工学科	学外実習(4年、2単位)	学外実習A(4年、2単位、選択) 学外実習B(4年、1単位、選択)
第2回教務委員会	平成15年9月24日	制御情報工学科	ロボット工学(5年、1単位)	ロボット工学(5年、2単位)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	教養科	「政治経済」「歴史特論」「東洋思想史」「国語特論」「物理特論」「地理学特論」(3年、1科目を選択)	「政治経済」「歴史特論」「東洋思想史」「地理学特論」を「社会と文化」1科目に改定(3年、選択)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	機械工学科	機械工学入門(選択、1年) 力学演習(選択、4年) 工業外国語B(選択、5年)	機械工学入門(必修、1年) 力学演習(必修、4年) 工業外国語B(必修、5年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	機械工学科	電子工学 (3年4年、各1単位)	電子工学 (3年、2単位)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	情報処理基礎演習Ⅲ(2年)	UNIX入門(2年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	情報処理基礎演習Ⅳ(2年)	プログラミング入門(2年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	情報処理演習Ⅰ(3年)	C言語基礎演習(3年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	情報処理演習Ⅱ(3年)	C言語応用演習(3年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	電子機械設計(3年)	電子機械基礎実習(3年)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	電気電子工学科	電気電子工学実験 (通年4単位) 卒業研究 (通年8単位)	電気電子工学実験 (前期2単位) 卒業研究 (通年10単位)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	量子化学 (選択、1単位、5年後期)	物理化学3 (選択、1単位、5年後期)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	材料物性1 (必修、1単位、5年前期) 材料物性2 (必修、1単位、5年後期)	材料物性 (必修、1単位、5年前期)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	反応工学 (必修、1単位、5年前期)	反応工学 (必修、1単位、5年後期)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	触媒工学 (選択、1単位、5年後期)	触媒工学 (選択、1単位、5年前期)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	細胞工学 (必修、2単位、5年後期)	細胞工学 (必修、2単位、5年通年)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	微生物学 (必修、2単位、2年通年)	微生物学 (必修、1単位、2年後期)
平成16年度				
審議機関	審議日	該当科	旧	新
第2回教務委員会	平成16年9月24日	電気電子工学科	学外実習A、Bは4年次のみ開講	学外実習A、Bは4、5年次の開講
第3回教務委員会	平成16年12月1日	教養科	3年選択科目を廃止	3年選択科目を廃止し、全学科3年の必修科目として「社会と文化」を新設

(出典：学生課教務係)

資料 9-1-④-4 : 総合システム工学プログラムの教育課程改善システム

(1)教育点検の結果に基づいた学習・教育目標、達成度の評価方法・評価基準等の改訂と改善活動を継続していくシステム

(i) 改善するシステムの存在
 本プログラムの点検は、プログラム委員会が行い、その結果をプログラム担当教員会議に報告する。プログラム委員会のワーキング・グループとして第1委員会から第6委員会までの委員会が機能する。プログラム担当教員会議は継続的に自己点検・評価に関する事項を審議する義務を負う。

(ii) 改善活動の実施状況
 本プログラムの点検・改善活動のスケジュールは以下に示される。本スケジュールは本プログラムの年間スケジュールのバック・ボーンをなしており、その活動結果は各会議に報告され、かつ討議される。この年間スケジュールの踏襲が改善活動を継続していくシステムとなっている。

点検・改善活動スケジュール

前期 後期

4月 6月 9月 2月 3月

教員会議 I 教員会議 II 教員会議 III 教員会議 IV

改善提案 P (点検) 入試 (第7表)

改善実施計画策定 (第1~5表) 実施 D (企運表1) 実施経過報告 (企運表1) 点検 C (第6表) 調査、FDW (第3.0表) 実施報告作成 (第6表1)

(出典：平成16年度「総合システム工学」プログラム自己点検書)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/sennkouka/kaizen/Index.html>

資料 9-1-④-5 : 総務委員会規則

○沼津工業高等専門学校総務委員会規則

(昭和49.2.25制定)

最終改正 平成16.4.14

(目的)

第1条 沼津工業高等専門学校の管理運営の円滑を図るため、総務委員会（以下「委員会」という。）をおく。

(組織)

第2条 委員会は、校長が主宰し、次の委員をもって組織する。

(1)副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）

(2)学科主任、教養科主任及び専攻科長

(3)本校教員で校長が任命した者

(4)事務部長

(審議事項)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

(1)教育の方針に関すること。

(2)学校の管理運営に関すること。

(3)その他必要と認められること。

(会議)

第4条 委員会は毎月1回校長がこれを招集する。ただし、必要あるときは、臨時にこれを招集することができる。

2 校長に事故あるときは、副校長（教務主事）がその職務を代行する。

(出典：本校規則集)

(分析結果と根拠理由) 相応であるが、一部改善の余地がある。教育活動に関する各種評価に基づく教育カリキュラムの見直しは、準学士課程では教務委員会が、専攻科においては総合システム工学プログラムの改善プロセスの一環としてプログラム委員会がそれぞれ行っている。準学士課程においては、毎年の教育課程の見直しの結果として、この2年間だけでも27科目の改廃、新設が行われている。ただし、第4, 5学年に関しては、準学士課程の教育課程と総合システム工学プログラムの教育課程という2面を持っているが、その両方の側面をどのように協調させて教育課程の見直しを行っていくかが、現時点では整理できていないと言えない。この点に関しては今後検討と改善を行っていく必要がある。

観点 9-1-⑤ : 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況) 準学士課程では平成17年度から授業アンケートの評価結果に対する対応（改善方針）をシラバスに記載することを義務付け（資料 9-1-⑤-1）、アンケート結果を授業改善に具体的に反映させる取組を行っている。専攻科では、授業完了報告書の授業実施状況欄の中で、学生の授業評価などを参考にして「次回の授業計画に活かせる事項」について具体的に記述することを義務付けている（前出資料 9-1-①-2）。

資料：9-1-⑤-1：平成17年度シラバス記入例

学科 学年	E4	科目 分類	電気電子機器[機器] Electric & Electronics Machine	講義 必修	通年 2単位	学習教育 目標 B-2	担当 沼津太郎 NUMAZU Taroh
概要							
科目目標 (到達目標)							
教科書 器材等							
評価の基準 と方法							
関連科目							
授業計画							
第1回							
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
第16回							
第17回							
第18回							
第19回							
第20回							
第21回							
第22回							
第23回							
第24回							
第25回							
第26回							
第27回							
第28回							
第29回							
第30回							
オフィスア ワー							
授業アン ケートへの							
備 考							

(出典：平成17年度シラバス記入例)

(分析結果と根拠理由) 相応であるが、一部改善の余地がある。各教員には授業評価結果が周知され、所要の改善措置を講じるシステムが、準学士課程、専攻科とも整っている。ただし、各教員が実施した授業改善が、どの程度の改善効果をあげたかを組織的に検証する体制の確立が求められる。

9-1-⑥：研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況) 沼津高専研究報告第39号によれば平成15年9月～平成16年8月の1年間に本校教員の行った研究活動の成果として、著作刊行物13件、学協会等への発表論文143件、学協会等における口頭発表63件が報告されている(資料9-1-⑥-1)。これらの数字は本校教員の活発な研究活動を行っていることを示している。

各教員はそれぞれの専門分野に関連した授業を担当する(資料9-1-⑥-2)とともに、卒業研究(準学士課程)あるいは専攻科研究(専攻科)においては、自己の専門分野に即したテーマで、担当学生の研究指導を行っており(資料9-1-⑥-3)、研究活動を通じて得た知見を教育・研究指導に生かしている。

資料 9 - 1 - ⑥ - 1 : 研究活動の記録 (抜粋)

研究活動の記録

211

本校教員の研究活動の記録 (抄)

大 賀 喬 一

- B 環状突起付きパンチによる材料型内充てん；(村越らと共著)，第54回塑性加工連合講演会論文集 (日本塑性加工学会)，香川県香川町，2003年11月，pp.147-148
- C 有限要素分解ソフトを利用した型内材料流動状況の予測 (台形状突起パンチによる押し込み加工)；大塚，日本機械学会東海学生会第35回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集，名古屋市，2004年3月，pp 208-209，(指導教官)。
- D 第54回塑性加工連合講演会にて座長 (セッション；鍛造Ⅲ)，2003年11月。
- D 日本塑性加工学会 (第38期) 代議員 (2年任期)
- D 日本塑性加工学会東海支部第23・24期商議員
- D 日本塑性加工学会校閲委員 (H15年4月～H17年3月)
- D 平成16年度日本塑性加工学会賞教育賞受賞，「効果的な機械工作実践教育システムの構築」，2004年5月22日。
- D アルミニウム鍛造技術会理事 (平成16年度)
- D アルミニウム鍛造技術会「第37回技術講座 (攻めに転換するアルミニウム鍛造；最新のアルミニウム鍛造技術の展望)」の企画，名古屋市，2004年7月27日。
- D 日本機械学会東海学生会顧問 (平成16年度)
- D 論文集「高専教育」28号査読委員
- D 平成16年度高専専門教育教員研究集会聴講審査員，長野市，2004年8月26～27日。

黒 下 清 志

- A 空気圧機器の流量特性評価法に関する研究委員会成果報告書 (高崎らと共著)，2003年9月，日本フルードパワーシステム学会。
- A 空気圧シリンダ系の動特性研究委員会成果報告書 (香川らと共著)，2004年2月，日本フルードパワーシステム学会。

using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 1: General rules (小根山らと共著)，2004年4月，日本フルードパワー工業会。

- A ISO 6358 rev-3, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 3: Alternative test method-Vacuum charge method, 2004年4月，日本フルードパワー工業会。
- A ISO 6358 rev-4, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 4: Alternative test method-Simple discharge method (小根山と共著)，2004年4月，日本フルードパワー工業会。
- B Japanese proposal for a possible revision of ISO 6358:1989, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristics (小根山らと共著)，Document for ISO /TC131/SC5/WG3 meeting held in Milwaukee, 2003年9月，日本フルードパワー工業会。
- B Improvement of Test Method of Flow-rate Characteristics of Pneumatic Components (小根山と共著)，Proceedings of SICE Annual Conference 2004, 札幌，2004年8月。
- C 充填法による大気放出空気圧機器の測定-続報 (黒下幸信，田代と共著)，平成15年度秋季油空圧講演会論文集，pp.96-98，2003年11月。
- C 空気圧機器のハイブリッド流量特性試験方法 (黒下幸信と共著)，平成16年度春季油空圧講演会論文集，pp.130-132，2004年5月。
- D 空気圧機器の流量特性の表示方法と試験方法についての新提案，代替試験法-真空充填法，油空圧技術，pp.39-43，2003年11月。
- D 日本フルードパワー工業会技術委員会空気圧部会「平成16年度空気システムの高速精密制御特性に関する調査研究委員会」に委員として参加，2004年5月。
- D 日本フルードパワーシステム学会理事，2004年5月。
- D 財団法人浜松科学技術研究振興会評議員，1999年5月よ

(出典：沼津工業高等専門学校研究報告第39号)

資料 9-1-⑥-2 : 教員の専門と担当科目の一覧 (物質工学科)

専門分野	担当科目
育種工学	生物化学・遺伝子工学・細胞工学
有機合成化学	有機化学
物理化学	物理化学・材料物性化学・触媒工学
分析化学・考古化学	分析化学・分析化学実験・機器分析
応用微生物学・酵素化学	微生物学・培養工学・微生物学実験
生物化学・生物系薬学	細胞工学・薬理学・生物工学実験
化学工学、安全工学	化学工学 2, 3・安全工学・環境工学・環境安全工学
有機化学	有機化学・有機材料化学・グリーンケミストリ
水産化学	生物化学・酵素工学・生物化学実験
無機化学	無機化学・無機材料化学・無機化学実験
生物化学工学・微生物工学・生物無機化学	反応工学・基礎化学工学・化学工学実験

(出典：本校公式ウェブサイト，学科紹介)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_frm.htm

資料 9-1-⑥-3 : 教員の専門と卒業研究の一覧 (電子制御工学科)

専門分野	卒業研究題目
流体工学	風洞実験のための自動計測システムの開発
	内部重力波の空間構造に関する解析
情報工学	情報セキュリティ管理の動向と沼津高専を想定したセキュリティポリシーの策定
	ITRON 仕様 TCP/IP プロトコルスタックへの IPsec の実装
	ITRON 仕様 OS における高負荷環境時の通信制御問題
画像処理・電子回路	MIRS 用エレクトロニクス基板の開発
	ロボット用 USB インターフェースの研究
	二足歩行ロボットの制御に関する研究
通信工学	VHDL 言語学習教材の開発
	南極における流星バースト通信路観測実験の解析
	流星バースト通信システムの開発
	来客通知装置の開発
数理工学	工学数理の教材開発
	地下放水路系の解析的・数値的研究
	N 個のバネ質点系の解析
	非圧縮性気流中の液体ジェットの不安定
誘電・絶縁材料	低密度ポリエチレンフィルムの交流高電界下での電気伝導に関する検討
	損失電流波形観測手法を用いた電力ケーブルの水トリー劣化診断技術の検討
	限定された領域での水トリー劣化診断法の検討
ロボット工学	屋内用全方向移動電動車椅子の開発
	オフィス用ワゴンロボットの開発
	脚式搬送ロボットの開発
	生体電位信号を用いた車椅子のハンズフリー操縦の研究
	移動ロボット制御用ボードを用いたロボット開発
ロボット工学、画像処理・電子回路	分散移動ロボットの研究(サッカーロボットシステムの検討)
	分散移動ロボットの研究(サッカーロボットシステムの検討)

(出典：電子制御工学科卒業研究発表会資料，平成16年度)

(分析結果と根拠理由) 相応である。各教員は各学科における授業分担の適正化や学生の研究室配属の調整などにより、自己の研究活動で得た知見を授業や学生の研究指導に生かしている。

観点 9-2-①：ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況) 教員の資質向上のための学内での組織的な取組は、教務委員会、厚生補導委員会、専攻科企画運営委員会等が、企画・実施している。

この2年間の具体的な取組を、資料 9-2-①-1 に示す。本校の中期計画で示された「教員研修や教員による研究会実施の具体的方策」(資料 9-2-①-2) に従って、昨年度から教員会議において、教員研究集会、海外研修、教育関連の分析結果の報告等を行う時間を設け、それらの成果を全教員に還元し、本校教員の教育技術の育成を目指している。また、新任研修をはじめとして外部研修にも積極的に教員を派遣している(資料 9-2-①-3)。専攻科担当教員においては、専攻科規則に「専攻科ファカルティ・ディベロップメント規程」が設けられ、「年間50時間以上の活動に努めなければならない」と定めている(資料 9-2-①-4)。また専攻科では、相互授業参観による授業教授法のスキルアップの取組も行われている(前出資料 5-6-①-3)。準学士課程においても、平成17年度からは、シラバスへの授業参観可能の有無の記載を義務付け(前出資料 9-1-⑤-1)、相互授業参観を促進する取組を開始した。

資料 9 - 2 - ① - 1 学内研修会・講演会一覧（平成15～16年度）

名称	実施日	実施場所	内容(テーマ)	参加人数	備考
教務関連					
教員会議報告	平成16年6月23日	本校大会議室	学業成績と入試成績・内申に関する統計分析(教務主事)	59名	
	平成16年9月22日	本校大会議室	教員研究集会報告(望月、三谷先生)	53名	
	平成17年2月2日	本校大会議室	欧米と日本の高等教育機関との違い(相原、大原先生)	64名	
	平成17年4月27日	本校大会議室	5年間の入学者データの分析(学生相談室:加藤先生)	60名	
e-Learning 説明会	平成17年3月29日、3月31日	本校第一視聴覚教室	Black-Boardシステムの利用法(嶋先生)		

厚生補導関連

名称	実施日	実施場所	内容(テーマ)	参加人数	備考
厚生補導担当教官(員)研究会	平成15年7月23日～24日	文部科学省共済組合箱根宿泊所「静雲荘」	テーマ:学生支援 講演(講師):静岡大学保健管理センター 太田裕一氏 鈴鹿高専 一般科目 長瀬治里氏	32名	厚生補導担当教員対象
厚生補導担当教官(員)研究会	平成16年8月24日	本校第一視聴覚教室	テーマ:セクシュアル・ハラスメント 講演(講師):中央大学法科大学院 山田省三氏	約100名	全教職員対象

専攻科JABEE関連

平成16年度国立高専機構 JABEE受審準備	平成16年10月16日～17日	新日鉄幕張研修センター		2名	
JABEE審査員要請研修会	平成16年10月9日	新日鉄幕張研修センター		1名	
JABEE後援会	平成15年9月9日	本校大会議室	講師:日工教専務理事、椿原治氏	40名	全教職員対象

(出典: 学生課)

資料 9 - 2 - ① - 2 : 教員研修や教員による研究会実施の具体的方策

○ 教員研修や教員による研究会の実施の具体的方策

会議室にプロジェクトを常設し、FDの一環として、教官が研修成果や各種追跡調査等を教官会議後等に発表することを奨励・募集し、年間に2回以上の発表会を目指す。本校では、今まで文科省主催の研修会やその他の研究集会等に参加した教官には、教官会議でその成果を5分間程度、口頭で発表してもらっていたが、必ずしも十分なものではなかった。また、本校教官が教育に関する研究成果を本校以外の研究会で発表することは多いが、本校教官を対象として発表する機会は、非常に少ないのが現状である。これを改善するために、教官会議後等に30分程度の発表を企画・実施し、研修成果を本校教官に伝えるとともに、発表の工夫を通して教育技術を育成する。

(出典: 沼津工業高等専門学校中期計画)

資料 9-2-①-3 : 外部研修会などへの派遣状況 (平成15~16年度)

名称	実施日	実施場所	内容(テーマ)	参加人数	備考
メンタルヘルス研究協議会	平成15年11月20日 ~21日	ホテルイン金沢	テーマ:充実したキャンパスライフのためのメンタルヘルス講演(講師):香川大学教育学部 小柳晴生氏 分科会方式(5分科会)	2名	国立大学等保健管理施設協議会・文部科学省・金沢大学主催
メンタルヘルス研究協議会	平成16年9月15日 ~16日	虎ノ門パストラル	テーマ:国立大学・高専の法人化と学生支援講演(講師):国立情報学研究所所長 末松安晴氏 分科会方式(14分科会)	1名	国立大学等保健管理施設協議会・文部科学省・独立行政法人日本学生支援機構・国立大学法人東京工業大学主催
メンタルヘルス研究集会	平成17年3月22日 ~23日	KKRホテル東京	目的:国立高専において学生のメンタルヘルスを担当する教職員の資質の向上を図るとともに、情報の交換を行う講演(講師):東海学園大学 渡辺久夫氏 分科会方式(5分科会)	2名	国立高等専門学校機構主催
平成15年度高等専門学校教官研究協議会	平成15年8月20日 ~22日	国立オリンピック記念青少年総合センター	目的:高専に新たに採用された教員を対象とし、教員の資質の向上を図ると共に、情報交換を行う講演(講師):国立高専協会長 四ツ柳隆夫氏 東京大学大学院 多比良和誠氏 班別方式(第12班)	3名	文部科学省主催
平成15年度高等専門学校教育教員研究集会	平成15年8月28日 ~29日	ホテルグリーンパーク鈴鹿	目的:高専における独創的な研究成果に対して発表の場を設けることにより、高専教育の振興と教員の研究業績の向上に資する 3会場77研究発表	2名	国立高等専門学校協会主催
平成15年度高等専門学校教員研究集会(第1班)	平成15年7月31日 ~8月1日	東京第一ホテル	目的:高専教育の内容及び方法の改善について研究協議し、高専教育の充実向上に資する テーマ:国語能力の低下という現状の下、高専における国語教育のあり方をコミュニケーションスキル教育を機軸として、抜本的に見直すのに必要な研究協議を行い、あわせて外国語教育についても同様の視点から協議する 講演(講師):同志社大学	2名	文部科学省主催
平成15年度高専情報処理教育担当者上級講習会	平成15年7月14日 ~25日	豊橋技術科学大学	目的:高専における情報処理教育の充実を図るため、担当教員に対し情報処理に関する高度の知識を技術を教授し、その資質の向上を図る コース別方式(教育専門コース1・課題研究コース12)	2名	文部科学省主催
平成16年度高等専門学校新任教員研修会	平成16年8月18日 ~20日	国立オリンピック記念青少年総合センター	目的:高専に新たに採用された教員を対象とし、教員の資質の向上を図ると共に、情報交換を行う講演(講師):本省専門教育課長 杉野剛氏 国立高専機構理事 高塩氏 人事院 研修調整課長 杉本芳輝氏 班別方式(第11班)	3名	国立高専機構主催
平成16年度高等専門学校教育教員研究集会	平成16年8月26日 ~27日	ホテルメトロポリタン長野	目的:高専における独創的な研究成果に対して発表の場を設けることにより、高専教育の振興と教員の研究業績の向上に資する 講演(講師):長岡技術科学大学長 小島陽氏	1名	国立高専機構主催
平成16年度高等専門学校教員研究集会(第1班)	平成16年7月29日 ~30日	釧路東急イン	目的:高専教育の内容及び方法の改善について研究協議し、高専教育の充実向上に資する テーマ:平成15年度教育方法改善プロジェクトの報告(自身の将来像を描けないことに起因する中途退学者数や1・2年後の離職者の増加等)を基に、高専における進路指導のあり方について研究協議する	1名	国立高専機構主催

(出典: 学生課)

資料 9-2-①-4：専攻科ファカルティ・ディベロップメントの時間基準

(実施内容)
第4条 専攻科担当教員は、自己の資質向上を図るため、前条各号に掲げるFDの実施形態のうちから、年間50時間以上の活動に努めなければならない。

2. 前項の活動時間は、FDの実施形態ごとに時間重み係数を勘案して算出した時間とし、当該時間は、実施形態ごとに次表の定めるところによる。

実施形態	内容	時間
研修会、講習会、シンポジウム等への参加	1 受講	1時間につき 1時間
	2 学内講師	1時間につき 2時間
	3 学外講師	1時間につき 3時間
論文等の発表(ファーストネームのみ)	1 口頭発表	1件につき 3時間
	2 一般論文、総説等	1件につき 10時間
	3 学術雑誌の査読付論文	1件につき 40時間
企業研修	1 受講	1時間につき 1時間
	2 講師	1時間につき 3時間
技術指導	1 受講	1時間につき 1時間
	2 講師	1時間につき 3時間
産業界における業務経験	1 体験	1時間につき 1時間
	2 特許出願	1件につき 40時間
その他の活動	1 公的な技術資格取得	1件につき 20時間
	2 国際協力事業団への参加	1時間につき 4時間
	3 政府機関等が実施する事業への参加・協力	1時間につき 4時間

(出典：専攻科ファカルティ・ディベロップメント規程)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/fd.html>

(分析結果と根拠理由) 相応である。本校の中期計画に即して、教員会議での教育に関する研究成果・経験の発表や学内外の研修会への参加を通じて、教員の資質向上へ取組が組織的に行われている。また専攻科においては、教員のファカルティ・ディベロップメント規定が整備されている。

観点 9-2-②：ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結びついているか。

(観点に係る状況) 観点 9-2-①のファカルティ・ディベロップメントの成果については、例えば、「学生指導のあり方」の発表が本校の進路指導のガイダンス実施に結びついたこと、e-learningの講習会が本校e-learningシステムの活用に結びつきつつあることなどが挙げられる。また、入学者データの分析は1、2年生全員への英語運用能力基礎テスト実施に結びついた(資料 9-2-②-1)。さらに、学外研修内容の発表については、欧米の高等教育機関が学生に自学自習の十分な課題を与えていることを教員が学ぶ機会となった。

4、5年生科目と専攻科の授業科目に関しては、平成12年度から平成15年度(専攻科科目は12年度と15年度)の授業評価アンケートを得点化したデータの比較が行われており、4、5年の授業ではこの4年間でほとんど変化が見られないのに対し、専攻科の授業に関しては顕著な得点の向上が見られる(資料 9-2-②-2)。これは、専攻科がJABEE取得をめざして、シラバスの充実や授業完了報告書の作成、教員相互の授業参観の呼びかけなど、授業改善の取組を比較的早期から進め

てきたことの成果の現れであると考えられる。

資料9-2-②-1：英語運用能力基礎テスト実施概要

実施テストについて

1年生の4月に実施：英語運用能力基礎テスト 810円
 (B.A.C.E. = Basic Assessment of Communicative English)
 1年生の1月および2年生に実施：英語運用能力テスト 1350円
 (A.C.E. = Assessment of Communicative English)
 主催団体名：英語運用能力評価協会
 (ELPA = Association for English Language Proficiency Assessment)

- ・テストの実施対象は1、2年全員
- ・欠席者については、別の日に実施し、代金の返却は行わない。
- ・何らかの形で総合英語の評価に加える
 (来年度については最初の授業で口頭で学生に連絡、再来年度からはシラバスに明記)
- ・来年度の実施時期はそれぞれ4月と1月(再来年度以降については来年度中に検討)
- ・テスト代金は口座に振り込んでもらう(教務係に連絡済み)。
 - 1年 810円(4月)+1350円(1月)=2160円
 - 2年 1350円(4月)+1350円(1月)=2700円
- ・6月の時点で振り込まれていない者については、クラス氏名のリストを英語科がもらい、英語授業担当者が現金で徴収する。

実施予定

2年：4/15(金) 14:50 16:10
 E2は特活をテストに、C2はこの日の授業はオリエンテーションで6時間で終了
 試験監督： M2村上 E2塩谷 D2山岸 S2勝呂 C2大石(クラス担任)

1年：4/21(木)
 M1, S1 16:30 17:15(7.8時限まで授業あり)
 E1, D1, C1 14:45 15:30
 試験監督： M1藤井 E1勝呂 D1塩谷 S1村上 C1山岸

- ・1月の実施については、後期時間割確定後に英語科会議で案を作り、決める。

(出典：教養科英語科)

資料9-2-②-2：授業評価アンケート結果の推移（平成12年度～15年度）

専攻科における学生による授業評価は '01年度より実施しているが、'02年度は授業評価に参加する学生数が少なく、比較しうるデータが得られていないので、ここでは '01年度と '03年度の比較を示す。

表6. 7 学生による授業評価結果比較('01年度/ '03年度)：専攻科

	01年度		03年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
前期	73.5	19.0	80.0	14.8
後期	77.7	17.3	82.4	14.9
通年	75.8	18.0	81.1	14.9

以下に示すのは '00年度～ '03年度の高専4,5年生における同様の調査結果である。

表6. 8 学生による授業評価結果比較('00年度/ '03年度)：高専4, 5年生

00年度		01年度		02年度		03年度	
平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
73.6	22.4	73.5	19.2	73.5	19.3	75.7	18.7

これらの指標はすべて、専攻科担当教員会議IV(年度末会議)にて開示される。

学生による授業評価は '01年度より行われているが、4,5年生による授業評価点は73点、標準偏差20点で推移しており、過去4年間、ほとんど変化は無い。

専攻科生の授業評価は '01年度で評価点 75.4 ± 2.1 、標準偏差の信頼区間は信頼度99%で[17.1, 20.5]であり、4,5年生の評価点、標準偏差とは有意な差異は認められない。'03年度については、評価点 80.2 ± 1.7 、標準偏差の信頼区間は信頼度99%で[14.4, 16.9]であり、'01年度とは明確に異なっている。評価点の4ポイント向上、標準偏差の3ポイント縮小は '03年度からの専攻科整備の成果である。

(出典：総合システム工学自己点検書)

(分析結果と根拠理由) 相応である。平成16年度より行っている教員会議での教育に関する研究成果の発表を受けていくつかの教育改善の取組がスタートしている。特に専攻科においては、授業関連文書の整備や教員相互の授業参観等を通じて行ってきた授業改善の取組が成果をあげていることが、授業評価アンケートの結果に示されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 授業実施状況を示す資料は、従来の紙ベースの管理とネットワークを利用した電子的な管理システムが併用され、確実に保管・管理されている。

平成16年度より教員会議での教育に関する研究成果の発表や学内外の研修会への参加を通じて、教員の資質向上へ取組が組織的に行われ、その一部は教育改善の具体的な取組のきっかけとなっている。専攻科においては教員のファカルティ・ディベロップメント規定が整備され、授業関連文書の整備や教員相互の授業参観などを通じて行ってきた授業改善の取組が成果をあげていることが、授業評価アンケート結果に示されている。

(改善を要する点) 授業評価などに基づく個々の教員の授業改善への取組を促すシステムは整いつつあるが、それらの改善活動の成果を学校として系統的に把握するシステムが、現時点は整っていない。

また、準学士課程としての教育課程と総合システム工学プログラムの教育課程という2面を合わ

せ持つ4, 5年の教育課程に関して, 両者の改善プロセスにどのように整合性を持たせていくかが今後の課題である。

(3) 基準9の自己評価の概要

授業の実施内容を示すシラバスはウェブサイトで公開されており, 成績評価資料とその評価結果も適切に管理されている。また授業の実施記録は授業担当教員によって管理される出席簿だけでなく, 準学士課程においては学級日誌を通じて, 専攻科においては授業完了報告書として保管されている。

教育活動の全般的な自己点検・評価は, 自己点検・評価委員会が行っている。自己点検・評価報告書は平成11年度から13年度までの3年間と平成16年度の計4回作成された。また, 専攻科と4, 5年のカリキュラムで構成される総合システム工学コースは, 平成17年5月にJABEEコースとしての認定を受け, 専攻科企画運営委員会を中心に詳細な自己点検評価が行われた。

点検評価に基づく教育課程の見直しは, 準学士課程においては教務委員会が, 専攻科においては「総合システム工学プログラム」の改善プロセスの一環としてプログラム委員会がそれぞれ行っており, カリキュラムをはじめとする教育課程の改善に関して継続的に検討している。また, 学校全体としての教育課程の見直しについては, 教員会議等の審議を経て, 校長を委員長とする総務委員会が行うこととなっている。

準学士課程においては, 各科でカリキュラム改善の不断の検討を行っており, 最終的に教務委員会の審議を経てカリキュラムの改訂が決定され, 平成15年度と平成16年度の2年間で計27科目の改廃, 新設が行われた。専攻科では, 企画運営委員会を中心にカリキュラムの検討が行われ, 専攻科教員会議の審議を経て, プログラム委員会が最終的な決定を行う仕組みとなっている。ただし, 準学士課程の教育課程と総合システム工学プログラムの教育課程という2面を持つ4, 5年の教育課程に関しては, 両者の改善プロセスにどのように整合性を持たせていくかが今後の課題である。

学生によるアンケートは平成12年度以降継続して実施され, 平成12年度および13年度の自己点検・評価報告書と平成16年度の自己点検書(専攻科, 4・5年)にその結果のまとめと分析が行われている。この授業評価アンケートの結果はウェブサイトにより学内公開され, シラバスや授業完了報告書に改善事項の記入を義務付けるなど, 所要の改善措置を講じるシステムを整えている。今後, 各教員が実施した授業改善が, どの程度の改善効果をあげたかを組織的に検証するシステムの確立が求められる。

卒業生や企業の人事担当者など外部関係者からの教育に関する意見はこれまで各科で独自に行われてきたが, 平成17年度から求人企業へのアンケートという形での意見収集を, 学校全体の取組として開始した。ただし, この取組は始まったばかりであり, そこで得られた意見や情報を教育課程の改善等にどのように生かしていくかは今後の取組にかかっている。

各教員は各科における授業分担の適正化や学生の研究室配属の調整などにより, 自己の研究活動で得た知見を授業や学生の研究指導に生かしている。

平成16年度から教員会議での教育に関する研究成果の発表や学内外の研修会への参加を通じて, 教員の資質向上へ取組が組織的に行われ, その一部は教育改善の具体的な取組のきっかけとなっている。専攻科においては, 教員のファカルティ・ディベロップメント規定が整備され, 授業関連文書の整備や教員相互の授業参観による授業改善の取組が成果をあげていることが, 授業評価

アンケートの結果に示されている。